



常勝のワンチームを作る8つのステップ vol.14

先述の通り、私には「日本一のロック」という自負がありました。本音をいえば、やりたくはありませんでしたが、優先すべきはチームの勝利です。毎週、同じ神戸市に本拠を持つワールドと練習を行い、何度もスクラムをめくり上げられながらも、私たちは少しずつ、強くなっていきました。

このように、さまざまな悩みを抱えながらも、なんとか全国社会人大会にまで漕ぎ着けました。そして神戸製鋼は、このシーズンも、優勝候補に挙げられています。「これだけ頑張ったのだ、優勝できる」——私は自分自身に言い聞かせていました。

一回戦の相手は東芝府中（現・東芝ブレイブルーパ

ス東京）です。この試合に勝ち、チームをまとめ直して一気に頂点を目指す、そんな構想を思い描いていました。試合は拮抗（きっこう）しましたが、試合終了まで残り1分、5点をリードし、相手陣深くに神戸製鋼は攻め込んでいた、ほとんどの選手が勝ちを確信していました。

しかし、一瞬の隙を突かれ、東芝府中の自陣ゴール前からボールを回されてパスをつながれ、最後はインゴール中央にトライを決められてしまいました。ゴールも決められて、1点差で涙を呑むことになったのです。

正月前にラグビーのシーズンが終わってしまうのは、

コーチ廃止の功罪（2）

文 林 敏之
text by Toshiyuki Hayashi



私にとっても、ほかのチームメンバーにとっても、初めての経験でした。そのシーズンは、私たちに勝った勢いで、東芝府中が優勝を果たしました。私は無念さを胸に秘めながら、キャプテンを降りる決意をしました。

そして、後任のキャプテンを、平尾誠二に託すことにしました。平尾は1988年当時、社会人3年目。チー

ムには平尾よりも年長の選手がたくさんいました。しかし、それでも私は平尾をキャプテンに指名することにしたのです。

自分たちで考え、自分たちで決める、そして、これまでとは違う新たなラグビーを創造してチームが優勝する… それには私とはまったく違うアプローチが必要なのではないか、そう考えたのです。

Profile

1960年徳島生まれ。13歳よりラグビーを始める。日本代表を13年間務め、神戸製鋼では7連覇を達成。同志社、神戸製鋼、日本代表、第1回RWCではキャプテンを務めた。オックスフォードブルー、歴代ベスト15に入る。引退後はラグビーで体験した湧き上がる感動を伝えようと、教育の道を志し、感性教育をテーマに活動している。2006年にNPO法人ヒーローズ設立、理事長就任。2021年9月、東京エムケイ株式会社取締役人事担当に就任し、人材育成に努める。



『常勝のワンチームを作る8つのステップ』
林敏之
発行：白秋社
定価：1870円（税込）